



第153回例会 1962.6.19(火)晴

白鷺社会員  
長谷川重辰氏

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

次回例会

6月26日(火)

上山R.C 6月29日P.M12.30~6月29日

P.M400

上記何れも会場はそのまゝ

○出席報告

本日の出席数 34名  
出席率 45.56%

欠席 届出 飯白君、鷺田君、今間君、石井君、黒崎君、手塚君、佐藤(仁)君、谷口君、津田君、広瀬君、五十嵐君

前回の修正出席数 40名  
修正出席率 88.88%

前回出席率 82.22%

メンバー クラブ 佐藤(昇)君、荘司君、酒田R.C、大野君、旭川R.C

○司会 三浦会長

○ソング それでこそロータリー  
リーダー 安藤君

○ビジター 荒井清君 配田R.C

○連絡事項

○各委員長へ連絡

各委員会の活動報告書を7月10日迄 提出下さい  
新委員会の活動計画書を7月10日迄

○警察署「交通問題懇談会」及び「鶴岡市交通安全都市推進協議会」に今後佐藤伊和次任期会長より出席して頂くことと致します。

○幹事報告

○会報到着 本荘R.C 東京R.C 八戸R.C

○例会場時間等変更

秋田東R.C 7月2日P.M12.30~7月2日  
P.M5.30

○事務所及例会場変更

・仙台南R.C 7月1日よりの新事務所  
仙台市定禅寺通櫓丁13橋本店内

・東京西R.C 6月1日より新例会場  
ホテル オークラ 毎金曜

○年次大会

第350地区年事大会

於 旭川市公会堂 9月22日~24日

登録料 ¥3,500

層雲峡、摩周湖等のエキスカンションが組まれて  
おります。細部は幹事にお問合せ下さい。

○新クラブ誕生

鳴子R.C 於鳴子ホテル 毎土P.M5.30~6.30

・その他

上野のれん会から小冊子が送られて参りました。  
回覧致しますから御申出下さい。

○本例会後来年度役員幹事、SAAの臨時集會いたしますから居残り下さい。

○各委員長よりの1ヶ年を回顧しての感想を発表し  
合い新委員長の参考に供する様にして非常に短い談の

中に意義あるデスクッションとなつた。

○張君先般上京の途次松木名誉会員の病氣見舞して参られたが、前回の時より病情良くなられ顔色も大変よろしかつたと報告あつた、早く御全快を祈り上げる。

#### 四つのテストの

きざまれた

パーゴラー

ある日私は上野公園を鶯谷の方から懐古気分で散歩しました。静かな通りでアチコチに古いお寺があり、何となしに昔の上野風物の一面が保存されているようになつたかしい気持でした。あるお寺の門前の黒板に「自利利他自化他」とあるのが、ふと眼にとまりました。解説を読むと、本当の利益は「他人を利益して得られる自分の利益」でなければならぬものです、即ち他人を生かして自分が生きることです、とあります。法華経の解釈のようでした。

これは驚きました。それは自分達が今やつているロータリークラブの主義主張と全く同じ考え方だからです。真理は洋の東西を問わず一つだなあと思感しました。感慨に打れつゝ、噴水のある広場に歩を運びました。が、噴水は、あいにく漏水事情のため中止されていて、聞くところの壮観は見られませんでした。そのかわり噴水花壇の脇に、カラ傘をバツトひらいたような粋なモダンな休憩所（パーゴラー）が印象的に眼に映りました。これは国際ロータリークラブが昨年東京で開いた年次大会を記念して造営し、この5月に都に寄贈したものです。

設計の山下寿郎氏も、施工の竹中工務店の社長もロータリークラブ員であり、総工費350万円もすべてクラブ員によつてまかさないました。つまりこのパーゴラーはロータリークラブ員協力の結晶の一つなのです。

私はこの休憩所で、しばらく休むことにしました。ベンチに腰をおろしてみると、頭上の傘のへりをめぐる太いハリに、金字で鮮やかに次の四つの文句が刻まれてあります。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

私の心は明るいよこばしさに満ちてきました。古寺の黒板も、モダンなパーゴラーも期せずして同じ真理を語っている。それも押しつけがましい説教ではなく、眼

あるものは見るべしと云つた風のさりげなさです。

第358地区ガバナー 中村米平

（「うえの」6月号より）

#### ロータリーの奉仕

ロータリークラブがモットーとしている「奉仕」について一言したい。世のため、ひとのため奉仕するクラブというと、慈善事業や社会事業がすぐ思いかべられるだろうが、ロータリーの「奉仕」はもうちよつと広い意味をもっている。ロータリーでは「最もよく奉仕する者が最も利益する」といつているが、これなどはとかく誤解されやすい言葉だ。

先日もあるテレビ番組で、この言葉をとらえて、奉仕に利益を結びつけるなんて不純ではないかと質問していた人があつたが、奉仕を社会事業や慈善事業と考えれば当然であろう。

ロータリークラブが社会事業や慈善事業にながしの寄与をしているのはむろんのことだが、その眼目は会員各自の職業を通じての奉仕である。そこにロータリーの特色も魅力もあると思う。

職業を通じての奉仕というのは、自分が毎日従事する仕事、毎日の職業活動が即社会への奉仕でありたいということである。慈善であれば、報いを求めぬ奉仕が当然だが、自分の毎日の職業活動を社会への奉仕と結びつけるためには、国家社会のため、ひとのために働く、そうすれば自分も報いられるのだという信念が必要であろう世の中のため、人のためよかれと念じて働くことが、結局、自分のため一番よいのだと信じ、かつそれを実行するのがロータリークラブの「奉仕の理想」である。

実業之日本社社長 増田義彦

（抜萃のつづりその22）

#### 〇ニコニコ箱

板垣君	御繁忙で久し振り
三井君 金井君	御繁昌で遅刻、早退
福島君	前回御休みで

#### 〇本日の献立

刺身	鯛	焼物	ます
味噌汁	豆腐、ナメコ、茗荷		
香ノ物	胡瓜		